

令和7年度 第1回 学校運営協議会 記録

R7.5.20 (火) 13:30～15:30

※外部参加者（学校運営協議会委員）

菅沼 泰夫氏（三方原地区根洗町自治会長）

片桐 秀樹氏（細江地区湖東自治会長）（欠席）

藤田 真人氏（社会福祉法人聖隷事業団 医療保護施設・地域医療支援病院
総合病院 聖隷三方原病院 執行役員・事務局長）

尾関ゆかり氏（浜松市社会福祉事業団 浜松市発達医療総合福祉センター
相談支援事業所シグナル 所長）

加藤 久貴氏（弁護士法人 リコネス法律事務所 弁護士）

山田 浩昭氏（浜松学院大学 教授）

松本 浩一氏（本校 PTA 会長）

※校内参加者 校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事（欠席）、 高等部主事、訪問教育主任、教務課長、総務課長

<学校運営協議会>

- 1 開会の言葉
- 2 校長挨拶
- 3 委員の任命
- 4 自己紹介
- 5 学校運営協議会概要説明 副校長より説明
- 6 会長・副会長・地域コーディネーターの選出
会長…山田委員 副会長…尾関委員 地域コーディネーター…山田委員
- 7 本校概要説明 副校長より説明
- 8 校内一巡
- 9 令和7年度学校経営計画 校長より説明
- 10 学部経営（小学部・中学部・高等部・訪問教育） 各部主事、訪問主任より説明
- 11 意見・助言

・A委員：各学部とも経営の中に「地域と連携」という言葉が出てきている。災害時などに協力できるように、地域と協定のような取り決めがあるとよい。

⇒学 校：中肢P連でも、その話題が出ていた。可能かどうかも含めて検討していきたい。

・B委員：学校全体の「チーム」の取組のところに、課題解決プロジェクトのことを分かりやすく載せてもよいのではないかと感じた。

・C委員：学校教育や運営について、保護者からの強い要望はあるのか。

⇒学 校：保護者との連携を大切に、家庭の様子を伝えてもらい、学校側の意図も伝えるようにしている。参観会は、保護者の要望で回数を増やしたり、他学部の参観も可能にしたりしている。

・D委員：地域に根付いた施設になってほしい。地域住民は福祉関連の施設について知らないことが多い。地域としては、町内の体制を整えながらどのように関わっていければよいのか、検討していきたい。

⇒学 校：災害時は、地域の方と協力して、助け合っていきたい。

・ E 委員：交流籍を活用した交流とはどのようなものか。

⇒学 校：交流を希望した児童生徒のみ、年 1、2 回行う。最初はリモートで顔合わせをするなど、児童生徒の実態に合わせて段階を踏んで行っている。

・ E 委員：高等部に進学しない生徒がいる。児童生徒自身も進路について選べるような方法を考えていきたい。また、卒業後の進路について、情報提供していきたい。

⇒A 委員：県東部の肢体不自由特別支援学校の生徒は高等部に 100%進学しており、その理由としては中学部卒業から受け入れてくれる施設がほとんどないといふことがある。西部地域は生活介護の施設がいくつかあり、空きがあるうちに入所を希望される場合がある。

⇒E 委員：通えるところの定員や通える場所が増えていくとよい。

・ F 委員：子どもたちの頑張りが来校者にすぐに分かるように、掲示物に力を入れるとよい。また、職員の研修のところでは、自立活動の分野で体の動きなどの研修を受けたあと、自分自身でも考えながら行えば、自信につながり、やりがいを感じられると思う。

12 第 2 回に向けて

・「つながりを大切にしたい学校づくり」各学部からの経過報告と課題解決方法の検討（予定）

13 閉会の言葉

<校内コンプライアンス委員会>

1 開会の言葉

2 学校の取組説明 副校長より説明

3 意見・助言

・ F 委員：個人情報流出に気を付けてほしい。

・ E 委員：この取組がどのように効果的だったかということ年度末に聞かせてほしい。

・ D 委員：自治会活動では、コンプライアンスについてあまり気にしていなかったもので、参考にしたい。

・ C 委員：取組については、ぜひ継続して行ってほしい。

・ B 委員：県の事案を参考にしていけるとよい。子供たち同士についてはどうか。

⇒学 校：児童生徒にアンケートを取って、話を聞いている。

⇒B 委員：弁護士会では、子どもたち向けに「いじめ防止授業」というものがある。教員向けにも研修プログラムがあるので、活用してほしい。

・ A 委員：交通安全に関することでは、職員の免許証や車検証、車の保険等をしっかりと確認して行ってほしい。

4 お礼

5 閉会の言葉